

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	61230001	
事務事業名	歴史民俗博物館管理事業	
予算書の事業名	1. 歴史民俗博物館管理費	
事業期間	開始年度	昭和48年度
	終了年度	当年度継続
実施方法	業務分類	1. 施設管理
	〇 1. 指定管理者代行	〇 2. アウトソーシング
	〇 3. 負担金・補助金	● 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	08030200
部名等	教育委員会事務局	
課名等	生涯学習・スポーツ課	
係名等	文化係	
記入者氏名	塩田明弘	
電話番号	0765-23-1045	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	001100508
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	8. 歴史民俗博物館費	

◆事業概要 (どのような事業か。事業の内容、業務の手順など)				実績		計画・目標			
博物館の維持管理や展示・普及活動。また館収蔵品の整理台帳を継続して作成、収蔵品の適切な管理及び活用を行う。				単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など)	→	① 博物館管理対象施設	棟	3	3	3	3	3
	博物館施設及び館収蔵品、市民		② 博物館収蔵品	点	3,423	3,423	3,500	3,550	3,600
			③						
手段	<平成23年度の主な活動内容>	→	① 保守・修繕を行った箇所	棟	5	7	5	5	5
	市直営のため、維持管理とそれに付随する事務作業。館内展示品修繕等、考古学教室開催による普及活動、館収蔵品の台帳データ作成。		② 確認した収蔵品	点	3,423	3,423	3,500	3,550	3,600
	*平成24年度の変更点		③						
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか)	→	①						
	博物館の継続的運営。展示施設、収蔵品の管理。館収蔵品の状態や収蔵場所、数量などの把握。		②						
			③						
その結果	<施策の目指すがた>		↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入						
	<この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか>		財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
	昭和48年の開館から。また開館当初は収蔵品の整理作業などが行われていたようであるが、年月が経過し、寄贈品が蓄積していったが収蔵データの不備が目立つことから、全収蔵品に対する再整理作業を行うこととした。		②地方債	(千円)	0	0	0	0	0
			③その他(使用料・手数料等)	(千円)	14	44	45	45	45
			④一般財源	(千円)	7,941	10,927	9,290	10,000	10,000
			A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	7,955	10,971	9,335	10,045	10,045
	◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)		①事務事業に携わる正規職員数	(人)	3	3	2	2	2
	部分的な管理委託を実施。また指定管理者制度は時期尚早として、平成18年度より直営に見直す。また平成13年度から入館料無料化。		②事務事業の年間所要時間	(時間)	400	940	900	850	820
			B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	1,682	3,953	3,785	3,574	3,448
			事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	9,637	14,924	13,120	13,619	13,493
			(参考) 人件費単価	(円@時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
	◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入)		◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
	市民から歴史民俗博物館の場所が、市街地から遠く、公共交通の便もなく不便。		● 把握している	各市の社会教育委員数、博物館年報、紀要の発行。普及活動の実施。博物館所蔵品目録などの刊行物による					
			○ 把握していない						

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 この結果博物館の管理運営が適切に行われた。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input checked="" type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) なため、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	博物館法、魚津市博物館条例
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地はない。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
なし	説明 館の維持管理は最低限の人員と予算で行っており、向上の余地はない。普及活動は内容により参加者増が見込める。収蔵品整理は館にどのような資料があるのかを公開し、情報の共有化を図ることできる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 館の維持管理は最低限の人員と予算で行っており、向上の余地はない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 最低限の人材の中で業務を行い、別事業費からも人件費を補填している状況である。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
なし	説明 博物館教室では材料費を受講者が負担している。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
平均	説明 県内の歴史系の博物館は有料・無料はほぼ半々。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり <input type="radio"/> 不適切 <input type="radio"/> 成果向上の余地あり
② 有効性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 成果向上の余地あり <input type="radio"/> 不適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり <input type="radio"/> 不適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり <input type="radio"/> 不適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input checked="" type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施    年度 <input type="text"/>	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	必要箇所の修繕、普及活動の実施、登録物件の整理作業の継続とデータ点検作業の実施。山城関連の展示やイベントの企画
	中・長期的 (3~5年間)	常設展の展示替え、エレベータの入替工事、施設老朽化や耐震などを考慮したりリニューアル。
		コストの方向性
		増加
		成果の方向性
		維持

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
収蔵品が多く、未展示の収蔵品も多くあるので年次計画を持って整理していく必要がある。		否
		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	61230002	部・課・係名等	コード1	08030200	政策体系上の位置付け	コード2	612003	予算科目	コード3	001100508
事務事業名	歴史民俗博物館企画展事業	部名等	教育委員会事務局		政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり		会計	一般会計	
予算書の事業名	2. 歴史民俗博物館企画展事業	課名等	生涯学習・スポーツ課		政策名	1 明日を担う人づくり		款	10. 教育費	
事業期間	開始年度 昭和62年度 終了年度 当面継続	係名等	文化係		施策名	2 生涯学習の推進		項	5. 社会教育費	
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	記入者氏名	塩田明弘		区分	なし		目	8. 歴史民俗博物館費	
		電話番号	0765-23-1045		基本事業名	博物館の充実				

◆事業概要 (どのような事業か。事業の内容、業務の手順など) 常設展示とは別に、テーマを設けて展示を行う企画展を開館期間中に2回実施。		単位	実績		計画・目標			
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) 市民、県内外観光客	① 市民 ② ③	人	45,176	44,812	44,966	44,728	44,490
手段	<平成23年度の主な活動内容> 古代のリサイクルに関する特別展と水循環に関する特別展を開催。 *平成24年度の変更点 市制60周年事業に関連した企画展とする	① 企画展の入館者数 ② ③	人	1,643	2,155	2,300	2,400	2,500
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 展示会を実施することで、地元魚津の歴史や今も伝わる貴重な文化財を知ることができる。	① 企画展の入館者数/市民 ② まちづくり市民意識調査 ③ 郷土の歴史や伝統などが継承され、自然に育まれた文化が豊かである。	%	4	5	5	5	5
その結果	<施策の目指すがた> 郷土の歴史、伝統、自然に育まれた特徴的な文化が普及しています。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入						
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 昭和62年吉田記念郷土館が開館し、従来の常設展示以外に、特別展示室が設けられたことから、以後年3~4回の企画展が実施されてきた。		財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
		①国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
		②地方債	(千円)	0	0	0	0	0
		③その他(使用料・手数料等)	(千円)	0	0	0	0	0
		④一般財源	(千円)	214	1,053	905	1,000	1,000
		A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	214	1,053	905	1,000	1,000
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 指定管理者制度による博物館運営の民間委託など。以前管理業務の民間委託を実施していたが、現在は直営としている。		①事務事業に携わる正規職員数	(人)	4	3	3	3	3
		②事務事業の年間所要時間	(時間)	420	540	520	500	480
		B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	1,766	2,271	2,187	2,103	2,018
		事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	1,980	3,324	3,092	3,103	3,018
		(参考) 人件費単価	(円@時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 魚津が生んだ偉人の紹介をしてほしい。		◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
		<input checked="" type="radio"/> 把握している <input type="radio"/> 把握していない	各市の社会教育委員数、展示会図録や展示会開催のポスターなど					

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 開催により市内の歴史や文化財を紹介できた。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input checked="" type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) なため、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地はない。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
あり	説明 展示会の見学会の開催や解説資料の作成、広報活動の充実。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 事業費はポスターなどの印刷製本費が大半を占めこれ以上の削減はできない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 現時点で最低限の人員しかおらずできない。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
なし	説明 平成12年度までは入館料を徴収。広く市民に魚津の歴史を伝えるために無料化を実施。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
平均	説明 県内他市の郷土博物館は、無料の施設と有料の施設がある。本施設の場合、広く市民に歴史や文化を紹介する目的で、入館料を無料にしている。今後、常設展示は、無料を続けるが、企画展については内容によって、有料化も考慮できる。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり <input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 成果向上の余地あり <input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり <input type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施    年度 <input type="text"/>	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	コストの方向性 維持
	中・長期的 (3~5年間)	成果の方向性 向上
22年度まで企画展は長期間の1回開催のため、開催回数・期間を23年度より2回に見直した。		
博物館収蔵資料のうち、公開していないものや未調査なものを調査研究し、順次公開していく。		

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
市民の関心が集まる企画展を実施し入館者の増を目指す。		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	61230012	
事務事業名	水族博物館一般管理事業	
予算書の事業名	2.一般管理費	
事業期間	開始年度	昭和56年
	終了年度	
	当面継続	
業務分類	1. 施設管理	
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	09070100
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	倉元朋就	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	00701010
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か。事業の内容、業務の手順など) 水族博物館の施設の維持管理と運営。修繕は除く。				実績		計画・目標			
				単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) ①県内外の入館者 (市民を含む) ②水族博物館の施設	対象指標 ① ② ③	① 年間入館者数	人	134,377	126,562	120,000	145,000	145,000
	② 水族博物館施設		式	1	1	1	1	1	
	③								
手段	<平成23年度の主な活動内容> 水族博物館の施設の維持管理と運営 委託業務の一部見直し リピーターを増やすために年間パスポートの発行 *平成24年度の変更点 変更なし	活動指標 ① ② ③	① 入場料その他の収入	千円	64,216	62,934	59,689	70,114	70,114
	②								
	③								
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) ①入館者が快適に、水族博物館で過ごすことができる。 ②施設の不具合を早期発見し、対応することができる。③入館者数が維持でき、リピーターが増加する。	成果指標 ① ② ③	① 本年度の入館者数/前年度の入館者数	%	87.02	94.18	94.82	120.83	100.00
	② 入場料その他の収入/歳出合計		%	40.73	45.14	26.89	40.00	40.00	
	③								
その結果	<施策の目指すがた> より魅力ある水族博物館を目指して、企画や展示の充実と施設設備の整備が行われています。 また、アウトリーチ活動やITを活用するなど積極的な情報発信が行われています。	↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入							
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか 昭和56年の水族博物館の開館に伴って開始。				財源内訳	①国・県支出金 (千円)	0	0	0	0
					②地方債 (千円)	0	0	0	0
					③その他(使用料・手数料等) (千円)	97,844	94,290	99,627	98,000
					④一般財源 (千円)	0	0	0	0
					A. 予算(決算)額(①~④の合計) (千円)	97,844	94,290	99,627	98,000
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)				①事務事業に携わる正規職員数 (人)	2	2	2	2	2
①施設の老朽化 ②入館者の減少 ③近隣の水族館、動物園、博物館のリニューアルや施設の増設。 ④余暇の過ごし方の多様化。 ⑤委託業務内容の変化 ⑥諸経費の高騰 ⑦施設整備に伴う地方債の償還				②事務事業の年間所要時間 (時間)	1,080	1,080	1,080	1,080	1,080
				B. 人件費 (②×人件費単価/千円) (千円)	4,541	4,541	4,541	4,541	4,541
				事務事業に係る総費用 (A+B) (千円)	102,385	98,831	104,168	102,541	102,541
				(参考) 人件費単価 (円@時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
議会：入館者数の維持、高齢者割引の設定 隣接売店：外部施設の充実 市民：特になし				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)				
				<input type="radio"/> 把握している  <input checked="" type="radio"/> 把握していない	県内他市に比較できる水族館がない。				

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 入館者にとって快適な施設の状態を維持することで、入館者数の維持とリピーターの増加が期待できる。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) なため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地はない。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
あり	説明 施設の充実と接客の充実により成果向上が見込める。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 施設整備事業と連携することで、より顧客ニーズに合ったサービスの提供が可能になり、効果が高まる可能性がある。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 多様化するお客様からの問合せや要望、老朽化した施設設備の不具合などに適切に対応し、サービスの維持向上を図るためにはこれ以上削減の余地はない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 多様化するお客様からの問合せや要望、老朽化した施設設備の不具合などに適切に対応し、サービスの維持向上を図るためにはこれ以上削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
なし	説明 平成23年度に入館者幹旋契約を廃止した。また、リピーターを増やすため年間パスポートの発行を実施した。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
低い	説明 入館料は、昭和56年の開館以来、消費税分を値上げしただけである。平成21年度より土日祝日の中学生以下入館料を有料とし、市内在住の中学生以下は全開館日の入館料を無料にした。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり <input type="radio"/> 不適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり <input type="radio"/> 不適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり <input type="radio"/> 不適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり <input type="radio"/> 不適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施    年度 <input type="text"/>	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	計画的な施設の整備を進めることで、入館者数の維持やリピーターの増加が見込める。 コストの方向性 増加
	中・長期的 (3~5年間)	平成25年の魚津水族館開館100周年事業に伴う料金の見直しや委託契約の見直し、また施設整備と改修を行う。 成果の方向性 向上

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
魚津水族館のあり方を、見直す時期に来ている。博物館としての活動と、観光施設としての位置づけが、魚津市として曖昧になっている。平成25年度の100周年以降における、魚津水族館の方向性を明確にすることが必要である。さらに、四代目の魚津水族館についても、検討を始める時期に来ている。		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	61230012				
事務事業名	水族博物館施設管理事業				
予算書の事業名	2.一般管理費				
事業期間	開始年度	昭和56年	終了年度	当面継続	業務分類
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営				
					1. 施設管理

部・課・係名等	コード1	09070100
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	倉元朋就	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	007010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か。事業の内容、業務の手順など)				実績		計画・目標					
水族博物館施設の維持・管理する事業				単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度		
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など)	→	① 当初修繕予算	千円	3,300	4,250	4,300	4,750	4,750		
	②										
	③										
手段	<平成23年度の主な活動内容>	→	① 実施した修繕の総件数	件	48	55	45	45	45		
	水族博物館の施設・設備の修繕の実施		② 修繕に要した費用	千円	5,293	5,779	4,300	4,750	4,750		
	*平成24年度の変更点 変更なし		③								
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか)	→	① 修繕件数の前年対比	%	100.00	114.58	81.82	100.00	100.00		
	①施設・設備が適切に管理ができる。		② 修繕に要した費用/前年度の修繕に要した費用	%	67.84	109.18	74.41	110.47	100.00		
			③								
その結果	<施策の目指すがた> より魅力ある水族博物館を目指して、企画や展示の充実と施設設備の整備が行われています。 また、アウトリーチ活動やITを活用するなど積極的な情報発信が行われています。		↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入								
◆この事務事業開始のきっかけ (何年<頃>からどのようなきっかけで始まったか)				財 源 内 訳	(1)国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
昭和56年の水族博物館の開館に伴って開始。					(2)地方債	(千円)	0	0	0	0	
					(3)その他(使用料・手数料等)	(千円)	5,293	6,071	4,300	4,750	4,750
					(4)一般財源	(千円)	0	0	0	0	
					A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	5,293	6,071	4,300	4,750	4,750
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)				①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	2	2	2	
開館以来29年が経過し、施設・設備の老朽化に伴い、修繕費が増大している。また、当初計画をしていない突発的な修繕が多くなってきており、職員等で小修繕を行っているものの、当初予定していた修繕を先送りしたり、補正予算を計上せざるえない。今後も修繕費の増加が見込まれるので、抜本的な修繕計画が必要である。					②事務事業の年間所要時間	(時間)	960	960	960	960	
					B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	4,037	4,037	4,037	4,037	
					事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	9,330	10,108	8,337	8,787	8,787
					(参考) 人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入)				◆県内他市の実施状況		(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
市民：安全対策の向上要望。				<input type="radio"/> 把握している  <input checked="" type="radio"/> 把握していない		県内他市に比較できる水族館がない。					



【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 施設の適切な維持・管理は、当館での生涯学習の推進に直結するため必要性が高い。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) なため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地はない。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
あり	説明 修繕計画の策定と適切な実施により、施設の基本的機能を維持できる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 施設整備事業と連携することで、より効率的な維持管理を行えるなど効果が高まる可能性がある。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 施設の老朽化に伴い、事業費が増大する。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 人件費を削減するとその分、日頃のメンテナンスに関する時間が減少し、事業費が増大する。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
あり	説明 業務内容の見直しで、適正化できる可能性はある。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
低い	説明 修繕工事費の増加が入館料に反映されていないので、今後も受益者負担は少ない。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり <input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり <input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり <input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
④ 公平性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施    年度 <input type="text"/>	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	コストの方向性 増加
	中・長期的 (3~5年間)	成果の方向性 向上

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
老朽化や法令の変更などに伴う修繕・改修などは、随時、生じてくるし、増加が予想される。また、100周年に向かっては、改修・リニューアルを優先しており、大きな修繕工事が先送りされているので、そのつど、優先順位をつけながら、効率的に事業を推進する。		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	



平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	61230011				
事務事業名	水族博物館ホームページ運用事務				
予算書の事業名	3.博物館事業				
事業期間	開始年度	平成10年	終了年度	当面継続	業務分類
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営				
					6. ソフト事業

部・課・係名等	コード1	09070100
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	倉元朋就	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	00701010
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か。事業の内容、業務の手順など) インターネット・ホームページを利用した情報発信による入館者増		単位	実績		計画・目標			
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) ①市民 ②県内外の入館者 ③魚津水族館に興味関心がある未入館者	① ホームページアクセス数	回	126,816	79,962	85,000	87,000	90,000
		② 年間入館者数	人	134,377	126,562	120,000	145,000	145,000
		③						
手段	<平成23年度の主な活動内容> ホームページを使った、イベント案内・利用案内。ホームページに寄せられた質問に対する回答。携帯電話用のホームページの配信。法人サポーターのページの開設。飼育係からの話題提供。 *平成24年度の変更点 変更なし	① ホームページ更新回数	回	190	221	210	220	220
		②						
		③						
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) ①対象者の魚津水族館に関する興味を増加させ、来館を促す。 ②魚津水族館に興味があるが、来館に至らない対象者を来館へつなげる。	① アクセス数の前年対比	%	103.24	63.05	106.30	102.35	103.45
		② 入館者の前年対比	%	87.02	94.18	94.82	35.00	100.00
		③						
その結果	<施策の目指すがた> 観光情報が効果的に発信され、全国各地から多くの人が訪れています。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入						
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 平成10年。多くの水族館や動物園などの施設でホームページが開設され、旅行雑誌と並んでホームページから情報を得ようとする人が増えたから。		財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
		①国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
		②地方債	(千円)	0	0	0	0	0
		③その他(使用料・手数料等)	(千円)	294	282	282	282	282
		④一般財源	(千円)	0	0	0	0	0
		A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	294	282	282	282	282
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 平成16年にホームページをリニューアルし、ライブカメラを設置した。(現在は故障中) 家庭への高速インターネットの急速な普及により、益々情報発信源としてのホームページの重要性が増している。また、携帯端末サイトで情報を得ている人も増加している。		①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	2	2	2
		②事務事業の年間所要時間	(時間)	220	220	220	220	220
		B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	925	925	925	925	925
		事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	1,219	1,207	1,207	1,207	1,207
		(参考) 人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見(担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 市民: 内容の更新を頻繁に行って欲しい。		◆県内他市の実施状況		(把握している内容又は把握していない理由の記入欄) 比較できる同様の施設がない。 しかし、県内の動植物園もホームページは開設している。				
		● 把握している	→					
		○ 把握していない						

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input type="radio"/> 直結度大 <input checked="" type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 ホームページは、タイムリーな情報を全国の方に提供できるので、魚津市への観光客誘致に対する貢献度は高い。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) なため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
あり	説明 当館の展示や活動などに興味を持ってもらいやすくなるようなページレイアウト、コンテンツの精査・充実、動画配信など、成果の向上の余地がある。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある事務事業として、広告宣伝事業があげられる。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 使用機器の定期的な見直しによる余地はあるものの、新たな内容構成の作成や構成の見直しは、外注をすることになり、事業費が増大する。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 発信情報の更新やコンテンツの充実が、サイト訪問者の増加につながるため、業務時間は増える。(ただし、一定以上のHTML運用スキルを職員に対し義務化するのであれば改善の余地はある)

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
あり	説明 一般的には、ホームページの運用自体は情報の発信手段であり、特定の受益者はいない。ただし、関連事業の法人サポーター制度は、導入にあたり受益者負担を求めており、さらなるサポーターの増に向けて協賛金額設定の見直しやサポートに対するフォローなどの導入を検討していく余地はある。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
低い	説明 法人サポーター制度については参加法人の増加を図ることにより、水族館としての受益者負担額を増加することができる。

★ 評価結果の総括と今後の方向性		
(1) 評価結果の総括		
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切	<input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input type="radio"/> 適切	<input checked="" type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性		
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施		年度
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止		
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携		
<input type="radio"/> 目的見直し		
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善		

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	平成21年度で行った、ホームページの充実の結果を観察する。 コストの方向性 維持
	中・長期的 (3~5年間)	平成25年の開館100周年に向けて、ホームページ内での展示魚類の解説の増加などを行い、利便性の向上を図る。 成果の方向性 向上

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
ホームページは、携帯電話のスマートフォン化が進む中で、より重要性を増している。来館意欲を掻き立てるような内容の検討と、発信方法については、100周年記念事業の中で事業展開している。		否
		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	61230013	
事務事業名	水族博物館施設整備事業	
予算書の事業名	7.施設整備事業	
事業期間	開始年度	平成20年度
	終了年度	当年度
	当面継続	業務分類
実施方法	1. 施設管理	
	○ 1. 指定管理者代行	○ 2. アウトソーシング
	○ 3. 負担金・補助金	● 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	09070100
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	倉元朋就	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	007010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か。事業の内容、業務の手順など) 海洋水槽への水中会話設備の導入 魚津水族館開館100周年に向けた事業計画の作成 事業計画に基づく当館施設の修繕やリニューアルの実施		単位	実績		計画・目標			
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) ①入館者 ②魚津水族館館内設備	① 年間入館者数	人	134,377	126,562	120,000	145,000	145,000
		② 対象設備 (水族館設備)	式	1	1	1	1	1
		③						
手段	<平成23年度の主な活動内容> ①危険物貯蔵タンク更新工事 ②空調用ボイラー更新工事 ③屋内高圧電気受電盤外改修工事 ④中央監視装置更新工事 事業計画に基づく当館施設の修繕	① 事業計画に基づく各種工事	式	1	1	1	1	1
		②						
		③						
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) ①海洋水槽でダイバーが来館者に水槽や展示魚類の説明を行うイベントを行うことで来館者の満足度が上がる。 ②開館から100周年となる平成25年9月に向けて、魚津水族館で実施する事業を策定し、計画的に改修を行うことで、よりよい施設の運営・管理をめざす。 ③効果的な改修を行い、今後10年にわたっての安定運営を図る。	① 入館者の前年対比	%	87.02	94.18	94.82	120.83	100.00
		②						
		③						
その結果	<施策の目指すがた> より魅力ある水族博物館を目指して、企画や展示の充実と施設設備の整備が行われています。 また、アウトリーチ活動やITを活用するなど積極的な情報発信が行われています。	↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入 入館者の満足度については、今後、アンケート調査を行う。						
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか 平成12年度頃から、海洋水槽の老朽化が目立ちはじめたので、平成20年度にこの事業を開始した。 また、現水族館設備は開館から30年が経過し、全体的に老朽化が激しくなっている。		財源内訳	(1)国・県支出金 (千円)	0	0	22,056	0	0
			(2)地方債 (千円)	0	0	0	0	0
			(3)その他(使用料・手数料等) (千円)	30,655	23,084	93,624	22,884	10,700
			(4)一般財源 (千円)	0	0	0	0	0
		A. 予算(決算)額(1)~(4)の合計 (千円)		30,655	23,084	115,680	22,884	10,700
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) ①近隣の水族館、動物園、博物館のリニューアルや施設の増設。 ②来館者のニーズの多様化 ③現水族館設備は、改修を行わないと早期に大きな故障を生じる可能性が極めて高い。		①事務事業に携わる正規職員数 (人)		3	4	4	4	4
		②事務事業の年間所要時間 (時間)		1,200	1,600	1,600	1,600	1,600
		B. 人件費 (②×人件費単価/千円) (千円)		5,046	6,728	6,728	6,728	6,728
		事務事業に係る総費用 (A+B) (千円)		35,701	29,812	122,408	29,612	17,428
		(参考) 人件費単価 (円@時間)		4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 議会：リニューアルに際しての県費補助の獲得。		◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄) 富山県内に同様施設を持つ施設がない。					
		● 把握している ○ 把握していない						

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 生涯学習施設として、施設の抱える問題点や改善策を実施し、良好な状態に維持管理する必要度は高い。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) なため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
あり	説明 今後、導入した設備をうまく活用することでの成果向上の余地はある。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 修繕に関しては施設管理事業と連携することで、より効率的に行える可能性がある。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 平成 25 年度までは、継続して事業費が必要。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 工事の発注関係の業務、事業計画策定のための事務・打合せが主になるため削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
なし	説明 通常イベントを行うための設備の導入や将来的な水族館管理運営の適正化を図る事業であり、特定の受益者はいない。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
低い	説明 来館者を特定受益者とはみなしにくいですが、今後は、設備の新設または改修の機会を捉えて入館料の引き上げを検討すべきである。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり <input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり <input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり <input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施    年度 <input type="text"/>	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	平成25年の開館100周年に向けて、計画的な修繕とリニューアルを行う。 コストの方向性 増加
	中・長期的 (3~5年間)	平成25年の開館100周年に向けて、計画的な修繕とリニューアルを行う。 成果の方向性 向上

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
24年度は、100周年に向けた改修・リニューアルを重点に行っているため、先送りされている大型の修繕を計画的に進める必要がある。		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	61230015				
事務事業名	調査研究事業				
予算書の事業名	5.調査研究事業				
事業期間	開始年度	昭和56年	終了年度	当面継続	業務分類
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営				
	6. ソフト事業				

部・課・係名等	コード1	09070200
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	飼育研究係	
記入者氏名	門田 信幸	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基 4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	007010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か。事業の内容、業務の手順など)				実績		計画・目標		
① 他園館からの情報収集 ②水生生物および地元生物の調査・研究		単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) ① 飼育職員 ② 展示情報 ③ 展示生物及び地元の河川・海の生物	対象指標 ① 飼育員数	人	7	8	8	8	8
		② 計画調査数	件	3	3	3	3	3
		③						
手段	<平成23年度の主な活動内容> 市内河川・沿岸及び県内の生物調査を実施	活動指標 ① 調査実施回数	人	3	5	5	5	5
	*平成24年度の変更点 ①魚津生物多様性地域戦略の調査研究 ②魚津・富山の生物調査 ③本事業は24年度より博物館事業に移管	②						
		③						
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) ① 他園館職員との情報交換により職員の飼育技術が向上する ② 地元生物の現状を把握できる	成果指標 ① 調査実施率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
		②						
		③						
その結果	<施策の目指すがた> より魅力ある水族博物館を目指して、企画や展示の充実と施設設備の整備の他にアウトリーチ活動やITを活用するなど積極的な情報発信が行われている。	↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入						
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 調査研究は平成2年度から地元生物を把握する目的に開始した。		財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
		①国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
		②地方債	(千円)	0	0	0	0	0
		③その他(使用料・手数料等)	(千円)	182	161	0	0	0
		④一般財源	(千円)	0	0	0	0	0
		A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	182	161	0	0	0
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 社会一般に環境意識が高まり、地元野生生物や環境に関する興味や関心が増している。		①事務事業に携わる正規職員数	(人)	1	2	2	2	2
		②事務事業の年間所要時間	(時間)	600	600	600	600	600
		B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	2,523	2,523	2,523	2,523	2,523
		事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	2,705	2,684	2,523	2,523	2,523
		(参考) 人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 地元の河川の生物調査や、希少生物の調査を議会で要望されている。		◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
		<input type="radio"/> 把握している	比較する同等の施設が無い					
		<input checked="" type="radio"/> 把握していない						

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 魚津水族館のメインテーマが「北アルプスの溪流から日本海の深海まで」「富山湾を科学する」であり、テーマに沿った展示や普及活動を行うために重要な事業である。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) なため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
あり	説明 24年度より博物館事業との連携による見直し

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
あり	説明 生物環境を把握でき、その環境に応じた展示ができる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連帯することで、効果が高まる可能性のある他の事業がない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 職員の技術向上及び展示充実の必要があり、削減できない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 水族館は交代勤務をしており、全ての職員が常時いるわけではない。採集の日も前月の休みの予定表に組み込んでいる。また、ダイバー業務も飼育職員で行っているため、削減の余地なし。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
なし	説明 展示や地域生物の調査なので特定受益者は生じない。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
平均	説明 他の市町村に同じ施設がないため比較できない。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 <input type="text" value="年度"/>	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input checked="" type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	なし コストの方向性 維持
	中・長期的 (3~5年間)	24年度より博物館事業との連携による見直し 成果の方向性 向上

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
調査研究は、その目的を十分理解し、計画的に行う必要がある。また、水族館での展示や普及活動に活用するとともに、広く調査研究に基づく情報を発信することは重要である。24年度は、生物多様性地域戦略の策定のための協力が增大することから、優先順位を考慮して、博物館事業の中で行う。		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	61230014	
事務事業名	企画展事業	
予算書の事業名	4.企画展事業	
事業期間	開始年度	昭和56年
	終了年度	当年度
	当面継続	業務分類
実施方法	6. ソフト事業	
	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング
	<input type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input checked="" type="radio"/> 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	09070200
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	飼育研究係	
記入者氏名	門田 信幸	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	007010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か。事業の内容、業務の手順など) 毎年テーマを選び、特別展会場などで展示を行うもの。事業の実施により入館者の増加と水生生物の知識が普及できる。			実績		計画・目標			
		単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
対象 (この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) ① 館内入館者	→	① 年間入場者数	人	134,377	126,562	120,000	145,000	145,000
		②						
		③						
手段 <平成23年度の主な活動内容> 夏の特別展、春のホタルイカ展示、イベント時の特別展示、写生大会の開催 *平成24年度の変更点 市制60周年と共催して、夏の企画展と写生大会を実施。	→	① 特別展開催期間の入場者数	人	113,737	107,122	102,000	120,000	120,000
		② 特別展の実施回数	回	8	8	8	8	8
		③						
意図 (この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 特別展の実施により水族館に関する興味が高まり、入館者が増加する。また、入館者は水生生物に関する知識と興味が 増す。	→	① 特別展開催期間の入場者数/年間入場者数	%	84.64	84.63	85.00	82.75	82.75
		②						
		③						
その結果 <施策の目指すがた> より魅力ある水族博物館を目指して、企画や展示の充実と施設設備の整備の他にアウトリーチ活動やITを活用するなど積極的な情報発信が行われている。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入							
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか 昭和59年から実施。入館者の減少に伴い、夏の特別展を開催した。その後入館者の多い春のホタルイカの時期にも開催した。		財源内訳	①国・県支出金 (千円)	0	0	0	0	0
			②地方債 (千円)	0	0	0	0	0
			③その他(使用料・手数料等) (千円)	2,256	1,860	2,208	2,208	2,208
			④一般財源 (千円)	0	0	0	0	0
			A. 予算(決算)額(①~④の合計) (千円)	2,256	1,860	2,208	2,208	2,208
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 通常の飼育管理の増大があるため人員が不足である。また、企画展に関わる費用は減少している。			①事務事業に携わる正規職員数 (人)	1	2	2	3	3
			②事務事業の年間所要時間 (時間)	900	1,000	1,800	2,700	2,700
			B. 人件費 (②×人件費単価/千円) (千円)	3,785	4,205	7,569	11,354	11,354
			事務事業に係る総費用 (A+B) (千円)	6,041	6,065	9,777	13,562	13,562
			(参考) 人件費単価 (円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 市内博物館との連携。魚津・富山に係る情報発信		◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄) 富山県内の動物園・植物園が独自の企画展を行っている。					
		<input checked="" type="radio"/> 把握している						
		<input type="radio"/> 把握していない						



【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 企画展は、入館者に対して生涯学習のきっかけを与える意味が大きく、貢献度は大きい。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) なため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切である。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
あり	説明 社会のニーズを把握することで、成果の向上が望める。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 埋没林博物館、歴史民族博物館や水産業・商工業・教育機関と連携した企画をすることで、今より実施効果が上がる。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 社会のニーズは多様化・高度化しており、魅力ある企画展を求められている。また、水族館はさまざまな企画展が開催されていることが認知されており、情報の発信源並びに集客の柱となる企画展の削減はできない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 少ない予算と人員で行っているため、削減はできない。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
なし	説明 企画展は、開催期間中にしか見ることができないにもかかわらず、入館料は一緒である。持ち込み企画展やイベント時に特別料金の設定が可能。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
低い	説明 少ない経費で企画・実施しているため、手作りしている部分が増えている。職員も交代で休んでおり、担当者も1日企画展に時間を割けるわけではないので、コストの低下には受益者負担を求めることも必要。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり <input type="radio"/> 有効性 <input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり <input checked="" type="radio"/> 効率性 <input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり <input checked="" type="radio"/> 公平性 <input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施    年度 <input type="text"/>	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	コストの方向性 維持
	中・長期的 (3~5年間)	成果の方向性 向上

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
従来の特別展で、恒例になっている「ホタルイカ展」は、マンネリ化を避けるために、工夫が必要で、そのための調査・研究を行うべきである。毎年、行っている他の展示は、テーマの選択を早めに行い、内容を充実すべきである。一方で、効果の薄い企画展などは見直しを行うべきである。他の、普及活動との関連を考慮することも必要である。今後の予定を早めに立てて、準備のための時間や、予算を確保する必要がある。		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	61230011	
事務事業名	水族博物館事業	
予算書の事業名	3.博物館事業	
事業期間	開始年度	昭和56年
	終了年度	
	当面継続	
業務分類	6. ソフト事業	
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	09070200
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	飼育研究係	
記入者氏名	門田 信幸	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	007010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か、事業の内容、業務の手順など)				実績		計画・目標				
① 水族館の常設展示生物の飼育・管理 ② 常設展示生物の運搬・収集 ③ その他普及活動に関すること				単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など)	対象指標	① 常設展示生物数	種	369	330	330	330	330	
	② 年間入場者数		人	134,377	126,562	120,000	145,000	145,000		
	③ 市民向けイベント数		件	0	4	10	10	10		
手段	<平成23年度の主な活動内容>	活動指標	① 展示生物数	点	11,230	10,217	11,000	11,000	11,000	
	① 水族館の常設展示生物数 ② 常設展示生物の運搬・収集 ③市民向けイベント、うおづ水辺の調査隊の実施		千円	2,750	3,951	3,554	3,554	3,554		
	*平成24年度の変更点 23年度実施のうおづ水辺の調査隊は河川のみであったが、24年度は沿岸まで広げて実施		人	7,246	6,937	5,000	8,000	8,000		
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか)	成果指標	① 本年度の展示生物数/全年度の展示生物数	%	110.80	90.97	107.66	100.00	100.00	
	① 展示生物をよい状態で飼育できる。 ② 入館者が生物に興味を持ち、生涯学習の推進になる。		%	36.18	42.27	40.86	40.86	40.86		
その結果	<施策の目指すがた> より魅力ある水族博物館を目指して、企画・展示や普及活動の充実と施設設備の整備の他にアウトリーチ活動やITを活用するなど積極的な情報発信が行われている。	↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入								
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 大正2年の9月21日に、一府八県連合共進会の第2会場として初代魚津水族館が開館。昭和29年に富山産業博覧会の魚津会場として2代目が建設され、昭和56年に現在の三代目が開館した。				財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
				(千円)	0	0	0	0	0	
				(千円)	7,600	7,835	8,697	8,697	8,697	
				(千円)	0	0	0	0	0	
				(千円)	7,600	7,835	8,697	8,697	8,697	
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)				①事務事業に携わる正規職員数 (人)		1	2	2	2	2
① 施設老朽化 ② 近隣の水族館、博物館の増設やリニューアル ③ 少子化				②事務事業の年間所要時間 (時間)		800	1,600	1,600	1,600	1,600
				B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	3,364	6,728	6,728	6,728	6,728
				事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	10,964	14,563	15,425	15,425	15,425
				(参考) 人件費単価 (円/時間)		4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 議会：学芸員の調査・研究に基づいた企画展示・普及活動および近隣施設との連携				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄) 比較できる施設が他にない					
				● 把握している						
				○ 把握していない						

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 展示などの事業を通して魚津・富山の水生生物に興味がわき、学習意欲が促進され、生涯学習が推進できる。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) なため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
なし	適切

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
あり	説明 継続的な職員の業務に伴い飼育技術の向上が図られ、職員成果は上がる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 市内外の博物館や教育機関、水産業関係などと連携をとることで展示・集客効果が高まる可能性はある。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 魅力的な博物館事業を行うためには、調査研究・研修・普及活動に関連性が高く、削減はできない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 通常の魅力的な事業展開のため、事業は増大している。また100周年関係の改修業務もあり削減の余地なし。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
なし	説明 当館は市で運営しているため、他の市町村と区別して、市民だけを対象としたイベントもやっている。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
低い	説明 市民が参加できる機会は今後、より一層必要となる。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり <input type="radio"/> 有効性 <input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり <input checked="" type="radio"/> 効率性 <input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
③ 効率性	<input type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり <input checked="" type="radio"/> 公平性 <input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
④ 公平性	<input type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり <input checked="" type="radio"/> 公平性 <input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施    年度 <input type="text"/>	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	コストの方向性 維持
	中・長期的 (3~5年間)	成果の方向性 向上

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
魚津水族博物館の中心的な事業で、テーマに沿った展示や、特徴的な「ホタルイカ・発光生物」「深海生物」「希少生物」など、個別のテーマや、水槽展示のテーマを設定し、観客に何を伝えたいのか、積極的に発信性のある展示を行う必要がある。		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	61230004	
事務事業名	埋没林一般管理事業	
予算書の事業名	2.埋没林一般管理費	
事業期間	開始年度	昭和30年度頃
	終了年度	当分継続
	業務分類	1. 施設管理
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	09060100
部名等	(教育機関)	
課名等	埋没林博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	石須 秀知	
電話番号	0765-22-1049	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	001100504
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	4. 埋没林博物館費	

◆事業概要 (どのような事業か。事業の内容、業務の手順など) 埋没林博物館を適正に維持管理し運営していくため、入館料等の取納業務や施設維持管理のための契約や支払い、清掃保守点検等業務を行う。		単位	実績		計画・目標				
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度		
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) (1) 埋没林博物館施設 (2) 入館者	対象指標	① 敷地面積	m <sup>2</sup>	16,336	16,336	16,336	16,336	16,336
			② 施設・設備修繕必要件数	件	18	45	40	35	30
			③						
手段	<平成23年度の主な活動内容> 入館者への受付案内業務、入館料等の取納業務、施設維持管理のための契約、支払い業務、修繕箇所の補修 平成24年度より計画的修繕を進めるため中～大規模修繕必要箇所等について概算費用を見積もり、優先度等を勘案して 計画を作成した。 *平成24年度の変更点 突発的な修繕等に対応しつつ、計画的修繕を進める。	活動指標	① 施設・設備修繕実施件数	件	7	12	15	15	15
			② 施設修繕費用	円	2,922,586	1,910,790	1,300,000	2,000,000	2,000,000
			③						
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 埋没林博物館施設を適正・安全にかつ効率よく維持管理し、入館者の満足度を上げる。	成果指標	① 修繕実施件数/修繕必要件数	%	38.89	26.67	37.50	42.86	50.00
			② 本年度修繕費用/昨年度修繕費用	%	191.32	65.38	68.03	153.85	100.00
			③						
その結果	<施策の目指すがた> 施設の機能性、利便性、安全性が高まり、生涯学習機能が向上するとともに、入館者が増加することで、経済効果を生み地域活性化につながる。また、景観の保全にもつながる。	↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入							
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 平成4年に埋没林博物館が現在の施設にリニューアルされたことに伴い実施		財源内訳	①国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
			②地方債	(千円)	0	0	0	0	0
			③その他(使用料・手数料等)	(千円)	14,885	14,587	19,005	19,000	19,000
			④一般財源	(千円)	31,336	21,700	19,427	20,000	20,000
			A. 予算(決算)額(①～④の合計)	(千円)	46,221	36,287	38,432	39,000	39,000
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 施設をリニューアルして20年近く経過し、施設建物や機械設備等が破損、老朽化し、その維持修繕等が大きな課題となっている。			①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	3	3	3	3
			②事務事業の年間所要時間	(時間)	1,000	1,500	1,500	1,500	1,500
			B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	4,205	6,308	6,308	6,308	6,308
			事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	50,426	42,595	44,740	45,308	45,308
			(参考) 人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 鉄骨の腐食等修理の必要な部分が目につく。(入館者)		◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄) 各施設の内容・規模等により、事業の実施状況が異なるため。						
		<input type="radio"/> 把握している							
		<input checked="" type="radio"/> 把握していない							

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 施設の機能性、利便性、安全性が維持・向上すれば、学習機能が高まるとともに、入館者が増加し経済効果を生み地域活性化につながる。また、施設そのものが、魚津港周辺の景観の一部となっているので、景観の保全にもつながる。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) なため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入 博物館法 (昭和26年法律第285号) 魚津市立博物館条例 (平成 3 年魚津市条例23号)	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
あり	説明 施設整備の老朽化により修繕費が増加しているが、単純な原状復旧の修繕でなく、耐久性のある材料や構造に変えたり、交換が安価あるいは容易なものに変更していくことで、施設の維持に対する負担を軽減することができる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 計画的な修繕が完了するまで当面は修繕必要箇所が多数残るため、一定程度の費用が必要である。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 最低限の人員で運営を行っており、削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
なし	説明 利用者は、現施設の運営・維持管理費等を考慮した入館料を負担している。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
平均	説明 現状の施設内容や近隣博物館との比較からも平均的なものである。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり <input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり <input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり <input type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施    年度 <input type="text"/>	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	計画的修繕を進める コストの方向性 増加
	中・長期的 (3~5年間)	修繕計画を見直しつつ必要性の高いものから実施していく。 成果の方向性 向上

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
予期せぬ事故や、水漏れによる漏電等の修繕に頭を痛めたが、夏場の扇風機使用や冬場のひざ掛けや座布団による寒さ対策等空調機の節電を工夫し、電気料の大幅な削減に努めた。		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	
(This area is currently blank in the provided image.)	

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	61230005	
事務事業名	歴史館ネットワーク事業	
予算書の事業名	3.歴史館ネットワーク事業	
事業期間	開始年度	平成15年度
	終了年度	当分継続
	業務分類	6. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	09060100
部名等	(教育機関)	
課名等	埋没林博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	石須 秀知	
電話番号	0765-22-1049	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	001100504
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	4. 埋没林博物館費	

◆事業概要 (どのような事業か。事業の内容、業務の手順など)		実績		計画・目標				
市の観光資源の1つである「歴史館」に関する情報の集約、情報交流、発生メカニズムの解明、一般市民への知識の普及を目指す事業		単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) 歴史館に何らかのつながりを持つ人、情報及び魚津市民	① 関係団体会員数	人	71	69	75	80	85
	② 市民	人	45,176	44,812	44,966	44,728	44,490	
	③							
手段	<平成23年度の主な活動内容> 歴史館交流会の開催、日本歴史館協議会と連携した事業の検討	① 研究発表件数	件	8	6	10	10	10
	*平成24年度の変更点 例年の交流会等事業に加え、市制60周年記念として特別講演会を開催。その他前年度と同じ。	② 記録誌配付件数	件	100	100	100	100	100
	③							
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 歴史館に関する人、情報等の交流を促進する。	① 聴講者	人	34.00	29.00	50.00	50.00	50.00
	②							
	③							
その結果	<施策の目指すがた> 歴史館の中心地としての魚津市の存在意義を高め、それを担う社会教育施設として博物館の機能を充実させる。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入						
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 平成4年の博物館リニューアルを契機に、歴史館に関する調査や情報発信も大きな事業の1つになった。 平成14年の市制50周年記念事業「歴史館フォーラム」を発端とし、翌年、全国の歴史館関係者が集う「歴史館交流会」を開催した。		財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
		①国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
		②地方債	(千円)	0	0	0	0	0
		③その他(使用料・手数料等)	(千円)	0	0	0	0	0
		④一般財源	(千円)	151	160	233	150	150
		A. 予算(決算)額(①～④の合計)	(千円)	151	160	233	150	150
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)		①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	3	3	3	3
歴史館に対する関心が高まり、博物館に寄せられる質問等も年々増加・専門化している。 交流会の集まりの中から、「歴史館連絡協議会」が発足し、「日本歴史館協議会」へ発展。		②事務事業の年間所要時間	(時間)	260	320	300	300	300
		B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	1,093	1,346	1,262	1,262	1,262
		事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	1,244	1,506	1,495	1,412	1,412
		(参考) 人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 日本歴史館協議会からは、普及活動的な内容を検討し相互協力して行きたいとの意見。		◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
		● 把握している	この事業は当市独自の事業であり、他市において類似事業及び調査等はされていない。					
		○ 把握していない						

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 全国の歴史館に関する人や情報が集まる博物館としての機能を充実させるのに不可欠の事業である。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) なため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
あり	説明 広報の方法の改善等により、事業に対する市民の関心を高めることで、参加者数等を募集数に近づけられる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 最低限の事業費で実施しており、削減の余地はない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 最低限の人員で実施しており、削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
なし	説明 現金取扱い時の事故の可能性や、有料化による参加者減少の恐れなどのリスクに対し、予算規模が小さいため有料化で期待される効果が小さい。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
平均	説明 他市にない事業で比較困難であるが、博物館等での講演会などは無料のケースが多く、現状で妥当と思われる。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施    年度 <input type="text"/>	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	コストの方向性 増加
	中・長期的 (3~5年間)	成果の方向性 向上
60周年記念として外部講師による記念講演を実施する。		
データベースの整備など歴史館に関する情報の中心としての機能を補強し、市内外の認知度を高める。		

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
全国の歴史館関係者を結ぶ役割において、当博物館が担うべき重要な事業であり。関係団体などとの協力関係をさらに密にし、当館の活動を向上させていく必要がある。		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	



平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	61230006	
事務事業名	埋没林博物館教室事業	
予算書の事業名	5.博物館教室事業	
事業期間	開始年度	平成5年度
	終了年度	
	当面継続	
業務分類	6. ソフト事業	
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	09060100
部名等	(教育機関)	
課名等	埋没林博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	打越山 詩子	
電話番号	0765-22-1049	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	001100504
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	4. 埋没林博物館費	

◆事業概要 (どのような事業か。事業の内容、業務の手順など) 主として魚津市民に対し、郷土の自然とのふれあいを通して、その重要性や意義への理解を深めることを目的として講座を主催する。		単位	実績		計画・目標			
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) 魚津市民、魚津市の自然等に興味のある人(市民以外を含む)	① 市民	人	45,176	44,812	44,966	44,728	44,490
		②						
		③						
手段	<平成23年度の主な活動内容> 講座「ふれあい学習会」として、「蜃気楼を作ってみよう(×3回)」「夏休み自由研究相談室」「沌滝となぞの風穴&葉っぱであそぼう」「冬の蜃気楼ウォッチング(×3回)」を開催	① ふれあい学習会開催回数	回	9	8	10	12	12
	*平成24年度の変更点 新たな内容が加わり、講座の種類が増加。蜃気楼関係の教室6回、植物関係の教室1回、地質関係の教室2回、自由研究相談を1回の計10回計画。	②						
		③						
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 魚津市の自然に興味を持ち接する機会を持ってもらう。	① 延べ参加人数	人	129	162	200	240	240
		②						
		③						
その結果	<施策の目指すがた> 市民に魚津市の自然や、博物館活動への理解を深めてもらい、生涯学習・社会教育施設としての役割を果たす。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入						
◆この事務事業開始のきっかけ (何年<頃>からどのようなきっかけで始まったか) 平成4～5年ごろ、学校週5日制の導入に伴い、博物館教室開催のニーズが高まった。		財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
		①国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
		②地方債	(千円)	0	0	0	0	0
		③その他(使用料・手数料等)	(千円)	0	0	40	40	40
		④一般財源	(千円)	40	10	149	150	150
		A. 予算(決算)額(①～④の合計)	(千円)	40	10	189	190	190
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 学校の週5日制完全実施、総合学習等自発的学習時間の増、高齢者等の生涯学習ニーズの多様化 インターネット等による情報の増大		①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	3	3	3	3
		②事務事業の年間所要時間	(時間)	240	400	500	500	500
		B. 人件費(②×人件費単価/千円)	(千円)	1,009	1,682	2,103	2,103	2,103
		事務事業に係る総費用(A+B)	(千円)	1,049	1,692	2,292	2,293	2,293
		(参考) 人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見(担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 参加者の意見(口頭)として ・蜃気楼について理解できた。 ・魚津の自然が見られてよかった。 ・もう少し種類や回数を多くしてもよい。 ・無料なのはありがたい。 など		◆県内他市の実施状況 <input checked="" type="radio"/> 把握している <input type="radio"/> 把握していない	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄) 他市の博物館でも、各種の博物館教室を開催している。					

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 郷土の自然や博物館を理解する人を増やすことは、生涯学習・社会教育の充実につながる。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) なため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
あり	説明 内容の改善、新たなプログラムの開発などでニーズを開拓し、募集人数に参加者数を近づける。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 最低限の事業費であり、削減の余地はない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 最低限の人員で実施しており、削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
あり	説明 参加料の徴収、あるいは入館料を負担した利用者を対象にするなど適正な負担とする検討が必要だが、参加者には有料なら参加しないとの意見もある。平成24年度は材料費などがかかる教室は有料に設定した。有料にすることでの影響や負担額等は、様子を見ながらさらに検討していく必要がある。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
平均	説明 他市の博物館等の行事では、無料、有料が混在し、有料の場合も負担額は低い。平成24年度では、材料などが必要な教室で参加料を設定した。設定した負担額が適正かどうかはこれからも注意し、検討していく必要がある。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり <input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 成果向上の余地あり <input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり <input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
④ 公平性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施    年度 <input type="text"/>	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	埋没林博物館のオリジナリティのある学習会内容を目指す。平成24年度から取り入れた受益者の負担が適正か、また講座参加者の動向にどのような影響があるか検討する。 コストの方向性 維持
	中・長期的 (3~5年間)	専門分野の異なる学芸員の協力によって講座内容を広げ、市民のニーズを掘り起こす。 魚津の地域資源について楽しく学べる学習会内容の作成を目指す。 成果の方向性 向上

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
市民が自然科学等を楽しく学べる博物館教室の実施は、当館の必要かつ重要な活動と考える。市が掲げる「水循環」とも絡め、教室の新たな内容等を検討しながら、地道に行っていく。		否
		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	61230007	
事務事業名	埋没林博物館調査研究事業	
予算書の事業名	6. 調査研究・展示事業	
事業期間	開始年度	平成4年度
	終了年度	
	当面継続	
業務分類	6. ソフト事業	
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	09060100
部名等	(教育機関)	
課名等	埋没林博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	打越山 詩子	
電話番号	0765-22-1049	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	001100504
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	4. 埋没林博物館費	

◆事業概要 (どのような事業か。事業の内容、業務の手順など) 市内の自然(植物、地質、気象等)を調査研究、記録し、展示や教育普及活動に活用できる形にして公開し、資料や情報を後世へ伝える。		単位	実績		計画・目標			
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) 魚津市の自然	① 魚津市の面積	km <sup>2</sup>	200	200	200	200	200
		②						
		③						
手段	<平成23年度の主な活動内容> 市内特に片貝川流域、角川流域の自然史資料に関する調査・資料収集・研究報告書、印刷物執筆、展示、講演等による調査研究成果の周知	① 調査回数	回	20	35	50	50	50
	*平成24年度の変更点 従来行ってきた市内の調査・資料収集・研究や調査研究成果の周知活動に加え、県外の先進地を視察し、地域資源と博物館の結びつきの事例について研修する。	② 新規収集資料数(画像ファイル等のデータ、写真等2次資料を含む)	点	400	625	800	800	800
		③						
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 調査研究、資料収集等により現況を明らかにし、展示、教育普及等の事業に活用できるようにする。	① 報告書・出版物・外部執筆・講演等件数	件	12	18	25	30	35
		② 収集資料総数(画像ファイル等のデータ、写真等の2次資料を含む)	点	10,300	10,925	11,725	12,525	13,325
		③						
その結果	<施策の目指すがた> 博物館活動を通じて郷土の自然の姿を伝えることにより、社会教育施設としての機能を充実させる。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入						
◆この事務事業開始のきっかけ (何年<頃>からどのようなきっかけで始まったか) 平成4年専任学芸員の配置による		財源内訳		0	0	0	0	0
		①国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
		②地方債	(千円)	0	0	0	0	0
		③その他(使用料・手数料等)	(千円)	0	0	0	0	0
		④一般財源	(千円)	651	682	3,250	900	900
		A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	651	682	3,250	900	900
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 洞杉の新聞等での紹介、片貝県定公園の指定等、魚津の自然の注目度の上昇 魚津市の地域資源として“水循環”が取り上げられる。 ジオパークのような地域資源の保護と活用を目的とした活動がさかんになる中、博物館には地域資源についての情報発信の場としての役割が求められる。		①事務事業に携わる正規職員数	(人)	1	3	3	3	3
		②事務事業の年間所要時間	(時間)	500	350	600	600	600
		B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	2,103	1,472	2,523	2,523	2,523
		事務事業に係る総費用(A+B)	(千円)	2,754	2,154	5,773	3,423	3,423
		(参考) 人件費単価	(円/時)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見(担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 調査研究の継続・充実に関しては、地元市議会議員等から定期的に要望されている。		◆県内他市の実施状況		(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)				
		● 把握している	→	他市においても、博物館の根幹的業務として調査研究が行われている。				
		○ 把握していない						

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 博物館の根幹を成す事業として、施策の目指す姿を実現するのに欠かせない事業である。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input checked="" type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) なため、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
あり	説明 調査研究に必要な地質系機材の導入により、成果向上が期待できる。また視察研修により、調査研究の成果を有効に展示などに活用できるようになると思われる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 最低限の事業費で実施しており、削減の余地はない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 最低限の人員で実施しており、削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
なし	説明 調査研究自体に特定の受益者は想定しにくい。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
平均	説明 他の博物館等でも状況はほぼ同じである。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施    年度 <input type="text"/>	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	コストの方向性 維持
	中・長期的 (3~5年間)	成果の方向性 向上

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
市内及び近隣地域の自然を調査・研究することは、地域の自然系博物館としての勤めであり、魚津の自然を未来に伝えるため、資料収集や、各種調査を実施している。昨年度はジオパークとしての地域性や地域資源の検討などの課題も示唆され、短期的に可視的な成果が上がる事業ではないが、継続していく必要がある。		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	61230007	部・課・係名等	コード1	09060100	政策体系上の位置付け	コード2	612003	予算科目	コード3	001100504
事務事業名	埋没林博物館展示事業	部名等	(教育機関)		政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり		会計	一般会計	
予算書の事業名	6.調査研究・展示事業	課名等	埋没林博物館		政策名	1 明日を担う人づくり		款	10. 教育費	
事業期間	開始年度 平成4年度 終了年度 当面継続	係名等	管理係		施策名	2 生涯学習の推進		項	5. 社会教育費	
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	記入者氏名	石須 秀知		区分	なし		目	4. 埋没林博物館費	
		電話番号	0765-22-1049		基本事業名	博物館の充実				

◆事業概要 (どのような事業か。事業の内容、業務の手順など) 調査研究の成果をもとに展示を発案・作成し、知識や情報を親しみやすい形で市民及び博物館利用者に提供する。		単位	実績		計画・目標			
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) 企画展示内容及び展示物、魚津市民及び入館者	① 市民	人	45,176	44,812	44,966	44,728	44,490
		② 入館者数	人	39,668	37,161	50,000	50,000	50,000
		③						
手段	<平成23年度の主な活動内容> 「大正時代の蟹気楼展」、「魚津の水循環と植物」、「魚津ナチュラルギャラリー」、「蟹気楼写真展」を実施	① 企画展示開催件数	件	3	4	3	3	3
	*平成24年度の変更点 「スギの世界」、「魚津ナチュラルギャラリー」、「蟹気楼写真展」を計画 「スギの世界」は、市制60周年記念として規模を拡大する。	② 企画展示開催日数	日	291	342	300	300	300
		③						
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 展示を企画・制作し、利用者の観覧に供する。	① 企画展示期間入館者数	人	34,954	37,161	40,000	40,000	40,000
		②						
		③						
その結果	<施策の目指すがた> 市民等に魚津市の自然や、博物館活動の意義を伝え、社会教育施設としての機能充実に資する。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入						
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 平成4年のリニューアルにより、博物館や蟹気楼だけでなく、地域の自然全般を対象として展示の幅を広げる必要が生じた。		財源内訳	①国・県支出金 (千円)	0	0	0	0	0
			②地方債 (千円)	0	0	0	0	0
			③その他(使用料・手数料等) (千円)	0	0	0	0	0
			④一般財源 (千円)	100	100	600	200	200
			A. 予算(決算)額(①~④の合計) (千円)	100	100	600	200	200
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 埋没林や蟹気楼だけではなく、洞杉等魚津の自然が学術的にも価値のあるものだという認識が定着してきた。 常設展示の入替が必要な時期を迎えている。		①事務事業に携わる正規職員数 (人)		2	3	3	3	3
		②事務事業の年間所要時間 (時間)		400	350	400	400	400
		B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	1,682	1,472	1,682	1,682	1,682
		事務事業に係る総費用 (A+B) (千円)		1,782	1,572	2,282	1,882	1,882
		(参考) 人件費単価 (円/時間)		4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 地域の地質資源などジオパーク的な視点を取り入れられたい (地元市議会議員)		◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
		<input checked="" type="radio"/> 把握している	他市の博物館等においても、企画展示を年間1~4件程度開催している。					
		<input type="radio"/> 把握していない						

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 博物館の根幹を成す事業として、施策の目指す姿を実現するのに欠かせない。事業である。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) なため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
あり	説明 展示手法等を工夫することで内容等の充実を図る余地がある。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 最低限の事務費で実施しており、削減の余地はない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 最低限の人員で実施しており、削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
なし	説明 企画展示期間の入館者が特定受益者となりうるが、入館料を徴収しており、負担は適正と思われる。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
平均	説明 大規模な特別展等で特別料金を徴収するケースは見られるが、独自の企画展示では、通常の入館料としているところが大半であり、負担水準は公平である。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施    年度 <input type="text"/>	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	コストの方向性 増加
	中・長期的 (3～5年間)	成果の方向性 向上

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
職員の創意工夫による手づくりの展示を実施して来ているが、好評を得ている。埋没林や屋敷楼とのつながりだけでなく、魚津市の自然全体をより広い視点からとらえ、その価値を紹介しつつ、常設展示の見直し計画を立てる必要性を感じている。		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	61230008	
事務事業名	ハイビジョン更新事業	
予算書の事業名	7.ハイビジョン更新事業	
事業期間	開始年度	平成22年
	終了年度	平成23年度
	業務分類	6. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	09060100
部名等	(教育機関)	
課名等	埋没林博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	石須 秀知	
電話番号	0765-22-1049	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	001100504
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	4. 埋没林博物館費	

◆事業概要 (どのような事業か。事業の内容、業務の手順など) テーマ館2階ホールにおいて、ハイビジョンによる「蟹気楼」の映像を上映中であるが、映像設備の老朽化及び部品の交換が困難なため、22、23年度の2か年で「蟹気楼」と「洞杉及び魚津の自然」をテーマとした2本の映像ソフトの制作と汎用性のある映像設備への更新を行う。		単位	実績		計画・目標			
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) 蟹気楼、魚津市の自然 ハイビジョンシステム	① 撮影日数	日	16	3	0	0	0
		②						
		③						
手段	<平成23年度の主な活動内容> ソフトの完成、ハード機器導入の完了、公開	① 想定撮影項目数に対する達成率	%	49	100	0	0	0
	*平成24年度の変更点 前年度で終了	②						
		③						
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 蟹気楼や魚津の自然を撮影記録し、科学教育の視点と観賞価値に配慮して映像ソフト化し、観客の視聴に供せられる形とする。 ハイビジョンシステムを更新し、画質・音質を改善し、他種機材の接続等が可能な汎用性を備えさせる。	① ソフト製作全体の進捗率	%	69.00	100.00	0.00	0.00	0.00
		② ハード機器導入の進捗率	%	0.00	100.00	0.00	0.00	0.00
		③						
その結果	<施策の目指すがた> 学術的に配慮された内容の映像ソフトを短時間で多人数が観賞できる大型ハイビジョン映像で上映することにより教育的効果が高まる。 美しく見ごたえのあるソフトを上映することで集客効果がある。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入						
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 平成10年度からハイビジョン映像の上映を開始したが、10年以上経過したことでハイビジョンソフトの内容と現在の学説等との整合性がとれなくなり、かつハイビジョン映像装置が老朽化し交換部品もなくなったため、平成22年度から2か年事業として開始。		財源内訳	(千円)	0	16,578	0	0	0
		①国・県支出金	(千円)	0	16,578	0	0	0
		②地方債	(千円)	0	0	0	0	0
		③その他(使用料・手数料等)	(千円)	0	0	0	0	0
		④一般財源	(千円)	400	7,660	0	0	0
		A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	400	24,238	0	0	0
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 映像技術・機材等の高度化、ハイビジョンの普及。		①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	3	0	0	0
		②事務事業の年間所要時間	(時間)	400	480	0	0	0
		B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	1,682	2,018	0	0	0
		事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	2,082	26,256	0	0	0
		(参考) 人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 平成22年3月議会、浜田議員質問 「ソフトは、埋没林博物館シアターでの上映だけでなく、学校への貸出、観光宣伝、動画配信など魚津を紹介するものとして広く外に目を向けるようにしてはどうか。またハードは、博物館の営業時間外にシアターを市民に貸し出したり、ナイトシアターとして映画の上映をしたり、博物館の枠を超えて市民が親しめるような活動を考えてみてはどうか。」		◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
		● 把握している	県内他市において、市単位で設置する博物館として大型映像の更新にかかる事業実施の情報は無い。					
		○ 把握していない						



【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 社会教育・生涯学習施設である博物館として、教育的効果を高めるため必要な事業である。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input checked="" type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) なため、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地はなし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
なし	説明 事業終了のため成果向上の余地なし。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 事業終了のため、連携等にはあてはまらない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
あり	説明 事業終了のため。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
あり	説明 事業終了のため。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
なし	説明 ハイビジョン映像及びシステムの公開以前の事業であり、特定の受益者は想定されない。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
平均	説明 特定受益者が想定されず比較できない。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり <input type="radio"/> 無効性 <input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 成果向上の余地あり <input type="radio"/> 効率性 <input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> コスト削減の余地あり <input type="radio"/> 公平性 <input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施    終了年度 <input checked="" type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止    ⇒⇒⇒⇒⇒⇒    平成23年度 <input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	23年度で終了 コストの方向性 削減
	中・長期的 (3~5年間)	23年度で終了(5年程度経過した後、新しいソフト製作を検討する必要性を判断) 成果の方向性 維持

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
2か年の事業を終了し、専門家の助言も頂き、職員の指導・立会いの下で撮影された映像は、蟹気楼や洞杉など魚津市の自然をよく捉えたものとなり、視聴者からも好評を得た。当博物館の目玉として入館者の増加を期待したい。		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	